

蒼天大地・心に浸みる悲しみ(Ⅱ) 2022 (ミクスト・メディア)

Melody of the Firmament | 2023.05

Journal of Koji Kinutani Tenku Art Museum

天空の調べ(絹谷幸二 天空美術館 機関誌)

vol.6

新しいことに挑戦する美術館 絹谷幸二天空美術館 美術館事業室長 坂本博孝

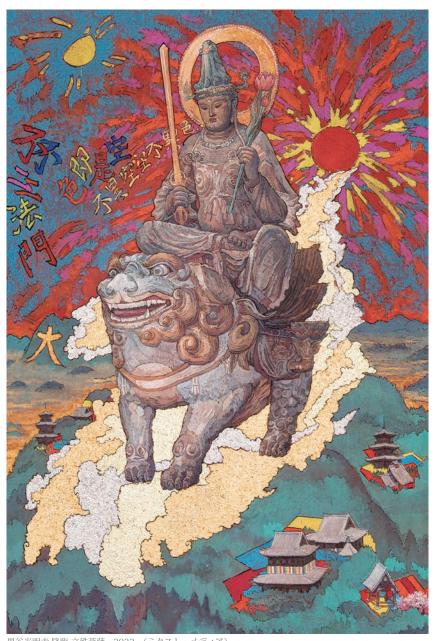
唯一無二の美術館を目指して 2016 年 12 月に絹谷幸二 天空美術館が える"画家とつながる V R 体験"も開始した。 開館し、早6年が経過した。開館時からの目玉コンテンツである「世界 2021年、開館5周年を迎えるにあたり、絹谷幸二が文化勲章受章の栄 初!絵の中に飛び込む3D映像体験」は、絹谷幸二が「絵をじっと見る 誉にあずかり、美術館も新たなステージへと踏み出した。展覧会ではよ ことも、3Dの様に動いているものを感じることも必要である」と語る り強く絹谷のメッセージを発信すべく、絹谷藝術の原点である「アフレ ように、この2つの相反することを同時に体験できる美術館として新し スコ」、創意の源泉である「不二法門」の特別展を開催した。新しい取 い挑戦だった。最近、没入体験(イマーシブ)型のデジタルアート展が り組みとしては、全国の子どもたちに創造の歓びと楽しみを体感しても 注目を浴びているが、当館では開館当初より3 D映像で没入体験ができ、 らう「キッズ絵画コンクール」を毎年開催し、未来を担う子どもたちを 更に3Dに登場した絵画や立体作品をじっくりと鑑賞ができる、双眼で 育む機会となることを願っている。 芸術を楽しむことに取り組んできた。

昨年、博物館法の改正と、ICOMの新たな博物館定義採択という、美 年2回テーマを決めて開催する展覧会と、天空美術館ならではの新し 術館に関わる変革があった。美術館は従来の枠を超えて、社会課題に取 い取り組み、この両輪を回して前に進むことが当館のミッションである。 り組み様々な経験を提供していく必要がある。その手始めに、社会人の 毎月開催している「アフレスコ体験」も、壁に絵を描くという普段でき 学びの場として各回テーマを設定して様々な視点からディスカッション ない体験ができるワークショップである。またコロナ禍をきっかけに、 する対談イベントを 6 月からスタートする。絹谷幸二 天空美術館はい 仮想現実で画家本人が館内やアトリエを案内し、来館者が絹谷と触れ合 つも新しいことに挑戦し、成長し続ける美術館でありたいと強く思う。

作品紹介 不二法門~ 絹谷藝術の創意の源泉 ~

「黒谷光明寺 降臨 文殊菩薩」、「天空仁王・喝ⅠⅡ」、「蒼天大地・心に浸みる悲しみ(Ⅱ)」

絹谷幸二 天空美術館 キュレーター・エデュケーター 髙橋暁生



黒谷光明寺 降臨 文殊菩薩 2022 (ミクスト・メディア)

不二法門とは初期の大乗仏教経典の一つである『維 摩経』の思想で、「相反する概念は別々のものではな く、ひとつのものの部分である」と、ものごとを双 眼で捉え本質を理解することの重要性を説いた教え である。私たちは善と悪、損と得、美と醜など二項 対立を作り出し、それによって多くのものごとを判 断する。しかし、この二項対立でものごとを区別す る考え方こそが煩悩(執着や欲望、怒りなど人の心 身を煩わし悩ませる心のはたらき)を生む。そして、 この煩悩があるからこそわたしたちは苦しむのであ る。そうした苦しみから脱却する術として、二項対 立構造を解体し、相反する概念が融合する世界"不 二の法門"が説かれたのであった。

古都奈良に生を受け「藝術とは人間の善悪、美醜、 強弱、長所短所など全てを包み込む自然の豊饒その ものでなければならない」と説く絹谷幸二の理想に は、この思想が鮮やかに息づいているのである。

本号の作品紹介では昨年12月より開催している特 別展「不二法門」で初公開した3点の作品を通して、 固定概念を超え「生きる智慧」を問い続ける絹谷藝 術の深奥を探っていく。

まず、特別展チラシやポスターのメインビジュア ルにも採用されている『黒谷光明寺 降臨 文殊菩薩』 (2022年 ミクストメディア 120号) であるが、本 作はくろ谷 金戒光明寺(京都)の御影堂に祀られて いる文殊菩薩像をモチーフにしている。この文殊菩 薩像は、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活 躍した慶派の仏師 運慶作と伝えられている。智慧を 司る文殊菩薩が在家の信者である維摩居士より、"出 家し、山岳地帯の僧院でただ一人解脱するのではな く、世俗のために生き、世俗の中で解脱をすること

が仏道である"と説かれ、山から下りてくる様子が描き表されている。この『維摩経』の一節は、維摩居士と文殊菩薩の対話の核心、「維摩の沈 黙、雷の如し」にて佳境を迎えるのである。悟りと世俗は別々の世界ではないと説く双眼の教えが示されており、まさに絹谷藝術の真骨頂とも言 える一点である。尚、絹谷は2019年に本作と同様の構図・モチーフで『光降る街・京都』を制作している。この作品は、日本で初開催となった ICOM (International Council of Museums: 国際博物館会議) 京都大会 2019 の公式ポスターの原画として描き下ろしたものであり、ポスターは 世界 141 の国と地域の博物館などに掲出された。

次に、「天空仁王・喝 I II」(I:2020 年、II:2021 年 ミクストメディア 130 号 2 枚組) は、この度の特別展で初めて 2 枚 1 組での展示が 実現した作品である。眼下に東京の街が描かれる右側「Ⅰ」が 2020 年、奈良と大阪の街が描かれる左側「Ⅱ」が 2021 年の制作である。守護神 である仁王(金剛力士)が灼熱の天空を駆け走り、全世界を恐怖に陥れた疫病と対峙する様子が描かれている。口を結んだ吽形(うんぎょう)像 は「Corona」を打ち砕き、口を開いた阿形(あぎょう)像はそれを喝破する。仁王は恐怖する人々のために救いの糸を垂らすのであるが、助かっ た命と助からなかった命がある。本作で絹谷は生と死をテーマに、いつまでも変わらない日常や永遠の生命はなく、パンデミックの下では生きる ことと死ぬことすら別々のものではないというメッセージを昨今のコロナ禍に投影したのであった。





空仁王・喝 I Ⅱ I:2020、Ⅱ:2021 (ミクスト・メデ

そして、「蒼天大地・心に浸みる悲しみ (Ⅱ)」(2022 年 ミクストメディア 150 号、表紙作品) であるが、本作は第89 回独立展(2022 年 10月19日(水)~31日(月)国立新美術館)に出品された大作「蒼天大地―心に染まる悲しみ」(2022年 ミクストメディア 200号)の連作で、 現下の世界情勢への嘆きとともに力強い平和へのメッセージが込められた一点である。画中の鎮魂と呪術性漂う異形の古代木像は、時と共に万物 が朽ち行く無常観を暗示し、その背後には砂中に伏せる母子と、覆いかぶさる木偶が描かれている。澄んだスカイブルーの空の下、どこまでも続 く赤い地平線の彼方には黒煙が上がり、画面左下にはウクライナ国旗で包まれた機関銃が覗いている。戦争と平和をテーマとした本作で絹谷は、「平 和であることを祈りその正義を唱え続けたとしても、一方で真逆のことを考える人たちもいる。戦争と平和は別々の概念ではなく一つのものの部 分であり、両方を双眼で捉えたうえで平和を語ることが重要なのだ」と不二法門の教えを謳い上げている。

絹谷幸二は多作な画家である。洋の東西を問わず多様なモチーフを描き、幅広いテーマを主題とし、絵画・立体・映像など表現手法も多彩であり、 それは一人の作家の事績とは思えないほどである。しかし、こうした多面的な表現とは裏腹に、作品に込められた哲学、メッセージは常に一貫し ている。無論それは一言で言い表すことは難しいが、その基盤を築く重要なコンポーネントの一つが不二法門なのである。

この造詣について、幼い頃から興福寺や東大寺など歴史的な環境に慣れ親しみ、仏教的思想が常に身近にある古都奈良で生まれ育ったというこ とは言うまでもないが、私はそれよりも絹谷が人生をかけて磨き上げた大局観に由来するものではないかと感じている。西洋美術と日本美術、古 典美術から現代美術までの一切を見渡し、更にその範疇に留まらず森羅万象に興味関心を抱き、スケッチブックを片手に世界中を旅し見聞きした 経験で培った実践的な「智慧」が、結果としてこの思想へ帰結したのではないかということである。そのため、直截簡明に繰り返されるメッセー ジからは、作品に込めた刹那の感情や思想といった類のものではなく、作家が人生を通して学び、覚った真理や実践哲学が滲み出ているような印 象を受けるのである。かくの如き、不二法門とは絹谷藝術の"創意の源泉"であると考える。

冒頭で取り上げた作品『黒谷光明寺 降臨 文殊菩薩』には、"色不異空空不異色"という文字が描き込まれている。これは「目に見え実体のある もの、実体がなく目に見えないものは別々のものではなく本質的には同じものである」ということを意味する般若心経の一節であるが、複雑に絡 み合う世界情勢の中で目前に起こる出来事だけでなく、そこに隠された人心も理解しながら今を生き抜かなければならない私たちにとって正鵠を 射たメッセージではないだろうか。繰り返しとなるが、絹谷はこのように作品を通して常に人生をかけて学んだ「智慧」を、惜しみなく鑑賞者に 発信しているのである。

作家の「智慧」が詰まった作品鑑賞は非常に意義があり、そして贅沢なことではないかと私は思う。自叙伝の一節を読むように、鑑賞すること で不二法門の思想と出会い、絹谷の人生哲学の一片を深く知ることができるのである。美術館に携わるものとして、こうした教科書だけでは教わ ることのない知見や作家のメッセージを来館者へ伝えることは非常に重要な役割であると考えている。今後も絹谷の深甚なる哲学を伝え続けてゆ くことで、館の存在意義を高めていきたいと思う。

※『維摩経』は紀元1~2世紀頃に作られたとされ、初期の大乗仏教経典の一つである。日本に伝わったのは飛鳥時代と言われており、聖徳太子が編纂したとされる仏典注釈書『三 経義疏(さんぎょうぎしょ)』の中に、『法華経』『勝鬘経(しょうまんぎょう)』とともに『維摩経』が取り上げられている。他の多くの経典では釈迦が教えを説くのに対し、『維摩経』 では在家の信者である維摩居士(維摩詰、サンスクリット語でヴィマラキールティ)が教えを説くところに特徴を持つ。不二法門はその『維摩経』の第九章「入不二法門品」に出 てくる枢要な思想で、先述の通り、ものごとを双眼で捉えて本質を理解することの重要性を説いた教えである。

第2回 絹谷幸二 天空美術館 キッズ絵画コンクール開催

開催概要

絹谷幸二 天空美術館では、昨年に引き続き「第2回 絹谷幸二天空美術館 キッ ズ絵画コンクール」を開催した。これは、全国の子どもたちに創造の歓び、楽し みを体感してもらう当館の柱と位置付ける試みであり、「人間愛」を掲げる美術 館運営母体である積水ハウスの文化振興事業の一環でもある。

応募期間は 2022 年 12 月 1 日~ 2023 年 1 月 30 日、テーマは「私の夢、大 好きな時」とし、総応募数 1,796 点の作品が全国から集まった。

審査会では、子どもたち一人一人から届くメッセージを大切に受け止め、百人 百様の個性の中から厳正なる審査が行われグランプリ1点、部門(小学校低学年、 小学校高学年、中学校)優秀賞 3 点、館長賞 1 点、佳作賞 43 点、入選 67 点の

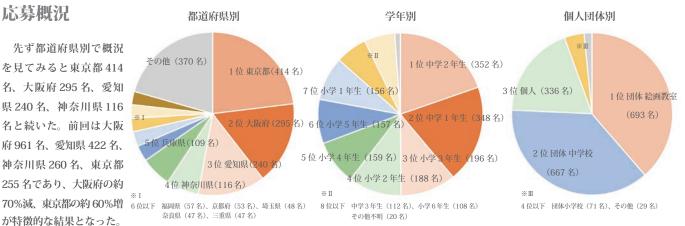


表彰式での集合写真 中央左が堀内容介館長、右が組谷幸二名誉館長

合計 115 点が選出された。また、第3回より正式採用を目指す団体賞についてもサプライズ賞として11団体が選出された。

応募概況

先ず都道府県別で概況 を見てみると東京都414 名、大阪府295名、愛知 県240名、神奈川県116 名と続いた。前回は大阪 府 961 名、愛知県 422 名、 神奈川県 260 名、東京都 255 名であり、大阪府の約 が特徴的な結果となった。



次に学年別で見ていくと中学生の応募割合が増加した。特に中学校2年生、1年生からの応募が多く、全体の約4割(前回は約3割)を占めた。 また今回は応募時期を変更(前回: $1/4 \sim 3/31 \rightarrow$ 9回: $12/1 \sim 1/30$)し、センター試験と予定重複を危惧していたが、結果的には中学校 3 年 生からは 112 名 (昨年 70 名) の応募があり 60%増となった。

最後に、個人・団体別での応募数を見てみると今回も絵画教室 693 名、中学校 667 名、個人 336 名の順であった。各カテゴリーとも前回比で は芳しくないが、特に絵画教室が約53%減となったことは今後の課題であると捉えている。

コンクールを終えて



展示風景 (入選作品、ワークショップスペース)

2回目の開催となる本コンクールは名誉館長である絹谷幸二氏の文化勲章受章のニュースとともに 華々しく開催した第1回に比べると、作品募集期間が短かったことも影響し応募総数こそ下回る結果 となったが、その内容は前回にも増して力のこもった作品が多く全体的なレベル高さは目を見張るも のがあったように思う。特に印象的であったのは、グランプリの浅井峻世さんの作品『はしご車の前で』

にも代表されるように今回のテーマに含まれる「夢」や 「大好き」のメッセージが率直且つ丁寧に描きこまれた 作品が多くあった点である。作品に込めた熱い気持ちが ひしひしと感じられ、無我夢中で楽しみながら絵を描く

子どもたちの姿がいずれの作品からもイメージすることが出来た。

これらの入賞・入選作品は3月18日~5月31日の期間で、「優秀作品展」と題し絹谷幸二天空 美術館内で展示をしている。次世代を担う子どもたちの無限の可能性を体感できる、豊饒なるイメー ジと色彩の世界をぜひご覧いただきたいと思う。



展示風景(受賞作品、展示スペース内 天空ギャラリー)

2023年5月25日発行 Melody of the Firmament / 天空の調べ vol.6 編集・発行 絹谷幸二 天空美術館

大阪市北区大淀中 1-1-30 梅田スカイビル タワーウエスト 27 階